

“自己責任”とこころざし けなしたり 褒めたり

かつて“自己責任”という嵐が吹き荒れたことがあり、おエライ政治家までが口にしてたっけ。今こそ、その言葉を浴びせたい対象が・・・

その1。下左は『朝日新聞』(11.7付)の紙面です。正直に言っちゃえば、事故米で被害を受けた業者を税金で救済することには引っかけりを感じます。とにかく値段の安さで原料を購入してきたのでしょから、単純に“善意の被害者”と同情することはできません。

是認するつもりは毛頭ないけど、一人ひとりの命や暮らしを大切にすることを置き去りにしてしまっているのが、現在の自民・公明の政治です。だからこそ、なおさら一般の消費者も食品会社も「作る顔が見える食べ物」を手に入れる努力やコストは求められるはず。と、すずき産地の20数年の汗をかけて主張したい。それ

こそ“自己責任”です。

その2。庶民とは無縁でしたが、つい最近まで「好景気」が吹聴され、謳歌してきた人たちがいます。その実態は、大銀行は預金金利をほとんどなくし、あるいは国内の中小企業への融資を渋って、また大会社は下請け単価や労働者への賃金を削りに削っての大儲けでした。そうして、ため込んだカネをアメリカの証券などに投資し、金融バブルを煽ってきたのです。

それが、はじけるべくして破綻したただけのことで、その穴埋めに税金を注ぎ込むなど、筋違いもはなはだしい。かつてイラクで人質にされた若者に投げつけた“自己責任”という言葉、財界人や政治家は自らに発してみんかい!

コホン。下右は『しんぶん赤旗』(11.7付)紙面です。これまでガッポガッ



ポためこんできた大企業が、やっぱり、まずは弱い人にしわ寄せを決め込もうとしています。

対照的に、左の『朝日新聞』の記事では、「普通にやっただけなのに何でこうなっちゃったんだろう、という思いは確かにある。でも正しいことをした自負があるから、誰一人欠けることなく乗り越えたい」と社長の弁。今いる従業員の雇用には手をつける考えは一切ない、とも書かれています。そうした小さな企業のこころざしを、大トヨタや大キャノンは少しは見習わんかい!

